

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立多摩高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成 副校長＝事務局長、主幹教諭1名、保健総務部主任1名、保健総務部員1名、計4名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（生活指導主任）、主任教諭(教務主任)、主任教諭(進路指導主任)、主任教諭(保健総務部主任) 計7名

(4) 協議委員の構成

日本大学文理学部総合文化研究室 教職センター教授	野内 頼一
青梅市民センター所長	木村 芳夫
青梅商工会議所 地域振興課長	細川 卓也
青梅警察署少年係係長	長野 和彦
青梅消防署地域防災担当係長	小野里 巧
青梅市立青梅第一中学校校長	川窪 公夫
青梅市立西中学校校長	梅田 尚之
青梅市裏宿町一丁目自治会長	武石 昇
PTA 会長	古川 由美子

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和6年6月19日（水）内部委員7名、協議委員6名

協議委員委嘱、委員紹介、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本年度の学校経営計画、各分掌の組織目標、本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和6年11月27日（水）内部委員7名、協議委員8名

学校経営計画実現のための教育活動に関する中間報告

協議委員からの教育活動に対する意見、中間報告の内容検討、

学校評価アンケートの質問項目についての協議

第3回 令和7年2月14日（金）内部委員6名、協議委員6名

本年度の学校経営計画に関する報告、学校評価アンケート結果報告、各分掌の取り組みの成果と課題

協議委員からの教育活動に対する意見

次年度に向けた学校運営の方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和6年11月19日（水）内部委員2名、協議委員3名

今年度の学校評価アンケートの観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第2回 令和7年2月14日（金）内部委員2名、協議委員1名

学校評価アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

（1）学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」

（2）アンケート調査の実施時期・対象・規模

	対 象	方 法	実施時期
	生徒 364 名	HR で概要を説明してから実施	12 月
	保護者 183 名	アンケートアプリにて実施	12 月
	教職員 38 名 管理職を除く	企画調整会議及び職員会議で趣旨説明してから実施	12 月
	①地域住民 26 名	自治会長を通じて配布回収	1 月
	②中学校 75 名	青梅第一中学校の2学期終業式に合わせ3学年で実施	12 月

（3）主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、部活動、安全防災、
施設・設備、体罰、地域連携、ライフ・ワーク・バランス

（4）アンケート結果の概要 「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答の合算

①生徒・保護者・教員

※詳細は別紙参照

小数点以下は四捨五入

質問事項	生徒	保護者	教員
学校での学習や生活は、充実している。	80%	76%	58%
先生は、協力して教育活動に取り組んでいる。	83%	72%	95%
授業は分かりやすい。	77%	68%	97%
学校での学習や検定試験などは自分の将来に役に立つ。	76%	86%	84%
学期末の読書の時間や放課後の時間、夏季休業の読書月間等に本を読んでいる。	37%	49%	26%
学校で、社会に出て役に立つルールやマナーを適切に指導している。	72%	72%	76%
学校は、悩みやいじめに対応している。	60%	64%	90%
学校は、「キャリアデザイン」の授業など、3年間の計画に基づいた進路学習に積極的に取り組んでいる。	74%	83%	92%
先生は進路の希望に応じて適切にアドバイスをしてくれている。	79%	66%	92%
学校では、部活動が活発に行われている。	67%	66%	24%
学校では、学校行事が活発に行われている。	80%	90%	63%

学校は、生徒の健康管理や防災及び交通安全指導の充実に積極的に取り組んでいる。	73%	83%	74%
敷地内や校舎内の清掃は行き届いている。	52%	55%	47%
学校は、体罰のない指導をしている。	80%	82%	97%
学校はインターンシップや森林保全活動、地域ボランティア活動への生徒への参加など地域との連携に積極的に取り組んでいる。	74%	82%	87%
学校はライフ・ワーク・バランスの実現に取り組んでいる。	70%	76%	42%

②地域住民・中学生

質問事項	地域	中学生
本校生徒の登下校時のマナーは良いと思いますか。	39%	24%
本校生徒の身だしなみは良いと思いますか。	54%	34%
本校生徒は地域の皆様への言葉遣いや挨拶ができていますか。	12%	20%
本校は自治会と連携して防災訓練の実施や裏宿町の山林整備のお手伝いをしていることをご存知ですか。	77%	12%
本校の生徒が地域行事(青梅大祭・青梅マルシェ・地域ボランティアなど)に参加していることをご存知ですか。	92%	24%
多摩高校は地域の要望に即応していると思いますか	20%	19%

(5) 評価結果の分析・考察

①生徒・保護者・教員

学校での学習や生活は、充実しているという項目では、教員の満足度が 58%と低いことが目立つ。教員の負担や環境改善が必要であると言える。教員の負担軽減のために業務の効率化や外部支援によるサポート体制の強化を図り、教員の意見を積極的に取り入れて働きやすい環境を整えることが重要である。

授業は分かりやすいという項目では、生徒の評価が 77%、教員の評価が 97%と差が見られる。今後は、特別支援の視点をもってさらにわかりやすい授業づくりをする。

読書の時間や放課後、読書月間等に本を読んでいるという項目では、生徒 37%、教員 26%と低いが昨年度より生徒は 10 ポイント向上しているこれは、学校ホームページで「図書館から」のサイトを作り、図書館の情報を発信したことも影響していると推察される。今後は、読書推進活動を強化し、読書イベントを開催する。また、図書館に生徒が集まるような環境整備を行い、生徒の図書館の利用を促進する。

社会に出て役に立つルールやマナーを適切に指導しているという項目では、指導が適切に行われていると生徒がおおむね意識していることが推察される。指導方法の現代化を図りつつ、校則の見直しを行い、実社会に合わせた指導へ見直していく。

学校は、悩みやいじめに対応しているという項目では、教員の評価が 90%と高い一方で、

生徒の評価が 60%と低い。今年度、3 回のいじめに関するアンケート調査を実施した。いじめが認知されやすい学校体制としていくことで向上すると考えられる。

学校では、部活動が活発に行われているという項目では、教員の評価が 24%と非常に低い。部活動の運営体制を見直し、教員の負担を軽減するために部活動指導員や外部指導員の導入を推進しながら、生徒の興味・関心に合わせた部活動が実施できるようにしていく。また、部活動の魅力を生徒に認識させることも重要である。

学校では、学校行事が活発に行われているという項目では、保護者の評価が 66%で教員の評価が 24%と低い。生徒の主体的な活動とするために、教員の実行委員会の在り方を改善するとともに、保護者の協力を今後も維持していくことが有効と考えられる。

学校は、生徒の健康管理や防災及び交通安全指導の充実に積極的に取り組んでいるという項目では、保護者の評価が 83%と高いことから、指導を行っていることが保護者に認識されていると考えられる。生徒への防災教育の充実に図り、具体的な事例やシミュレーションを取り入れ、防災や交通安全に対して自分事となるような指導を行うことが求められる。

敷地内や校舎内の清掃は行き届いているという項目では、全体的に評価が低い。清掃活動の見直しを行い、生徒や教員による清掃の質を向上させるとともに、生徒の美化意識の向上を図る教育を行うことが重要である。

学校はインターンシップや森林保全活動、地域ボランティア活動への生徒への参加など地域との連携に積極的に取り組んでいるという項目では、地域連携を推進している本校の取り組みへの認識がおおむね浸透していることが推察される。現状の地域連携を維持しつつ、さらに地域イベントやボランティア活動に参加する生徒のすそ野を広げる活動をしていくことが有効と考えられる。

学校はライフ・ワーク・バランスの実現に取り組んでいるという項目では、教員の評価が 42%と低い。教員の働き方改革を進めるために業務の効率化や外部人材によるサポート体制の強化を図ることが有効と考えられる。また、教員の意見を積極的に取り入れて働きやすい環境を整える。

① 地域住民・中学生

本校生の身だしなみや言葉遣い、挨拶についての質問項目については、地域の皆様、中学生からの肯定的な回答が低い割合となっている。TPO に応じた服装や行動をとることが必要であることを生徒に自覚させる。保護者のご協力をいただきながら改善を図る。地域連携については、生徒のボランティア活動をとおして地域へ本校の教育活動の周知を図る。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・本年度の取組(東京都西部学校支援センター特別指定校・デジタルを活用したこれからの学び指定校・スキルアップ推進校・外学校間交流推進校)を説明するなどして、学

校運営連絡協議会協議委員から、「本校がより良い学校、魅力的な学校になりつつある。」との理解を得られた。

- ・商工会議所との連携により、体験型の合同企業説明会やインターンシップの内容の充実、地域ボランティアの推進が出来た。

- ・地域の企業・事業所との連携体制を強固にすることで、生徒の進路活動の改善及び生活指導に活かすことができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・保護者の学校評価アンケート回収率改善のため、回収方法を検討する。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

業務の効率化や教員の外部人材によるサポート体制を強化する。教員の意見を積極的に取り入れて働きやすい環境を整える。

校内寺子屋等の学習支援員を活用により、生徒への手厚い個別指導を推進するとともに、教員の負担を軽減する。

(2) 学習指導

基礎学力の定着を図るために、授業内の学び直しを充実させる。

読書推進活動として読書クラブや読書イベントを開催し、図書館の利用を促進する。

(3) 生活指導

TPO に合わせた身だしなみを生徒が判断し、適切な行動をとれる資質・能力を育成する。

いじめ対策を強化するために定期的なアンケート調査を継続して実施し、相談窓口の充実やカウンセリング体制の強化を図る。

(4) 進路指導

体験型の合同企業説明会の継続実施やインターンシップの内容を充実させるために、商工会議所との連携を強化する。

(5) 募集活動

地域の中学校との交流活動や体験活動を実施することで、本校の教育活動を地域へ発信する。

中学校訪問や塾訪問を行い、本校の教育活動への理解を深める。

(6) 健康・安全

地域と連携した防災訓練、避難訓練の継続により防災教育を維持し、更なる改善を図る。

(7) ライフ・ワーク・バランス

業務の効率化や外部人材によるサポート体制の強化を図る。さらに、教員の意見を積極的に取り入れて働きやすい環境を整える。

6 「学校が良くなった」と考える外部協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9名

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらと も言えな い	あまりそ う思わな い	そう 思わない	分からな い	無回答
6	3	1	0	0	0	0